

回差点

十二月と聞くと何を思うの
でしょうか。私は自分の誕生
日の八日と二十四日のクリス
マスイブです。六十四年前の
八日は真珠湾奇襲攻撃による
太平洋戦争開戦の日に当たり
ます。「お前の誕生日を忘れ
ても開戦日は忘れない」、戦
地で幾度か死線を潜ってきた

亡き父の言葉で
す。それだけ重
大な日であった
のです。子供の
ころテレビでモ
ノクロの戦争記
録を見て「戦争
はイヤ!」と心
底思いました。
それが心のコア

になって、大人になってから
の自分の思考を形成してきた
ことは否めません。

ところで今年の十二月八日
は忘れられたかのように静か
に過ぎてゆきました。マスコ
ミもNHKが「その時歴史が

動いた」で触れたくらいだっ
たでしょうか。新聞一面には
「耐震強度偽装」「自衛隊イ
ラク派遣今日延長決定」、社
説に平和メッセンジャーのジ
ヨン・レノンが凶弾に倒れた
のが開戦日であったことくら
いです。三日後、「12・8を

忘れていいか 開戦の教訓を
生かそう」の論説を目にしま
した。「敗戦の日は大事にさ
れるが、戦争の本質を問う観
点に立つなら逆ではないか」

とありました。「8・15」が
戦没者追悼の意味を深くする

日なら「12・8」は国民不戦
の誓いの日であってもいいの
では、と思うのは私だけでし
ようか。そしてクリスマス、永井隆
博士が一番大切にされた聖書の
ことは「如己愛人(己のごと
く隣人を愛せ)」をギャラリ

12月に思う

ーに展示しました。「戦争の
被害で最も大きいものは、人
の醜さを見たことによる人間
に対する信頼を失う、魂に受
ける被害です」と書いていま
す。戦争は国の名による大量
殺人、いま相次ぐ女兒殺害の
悲劇、その命と何ら変わりま
せん。「もしも自分だった
ら」と相手の立場に立つ心の
訓練と愛を教えることの大切
さを思います。永井博士が書
き、加藤大道が彫った「平和
を」の版画とともに、不戦の
誓いに合わせて「如己愛人」
を思い起こす本来のクリスマ
スを祝いたいと思いました。
(波田町、古畑博子、57歳)